

＜第1号議案＞ 2017年度（2017年4月1日～2018年3月31日）

特定非営利活動法人 ぐらすかわさき 活動報告

■2017年度を振り返って

2017年度は第5期中期計画（2016～2018）の2年目の年でした。中期目標は次の3つです。

- (1) 「ぐらす・かわさき」らしい、持続可能な地域の居場所・活動拠点をつくりあげる
- (2) コミュニティビジネス支援のノウハウを拡充し、様々な中間支援組織との連携を推進する
- (3) 子育てしやすい社会に向け、子どもをめぐる地域の繋がりへの促進に寄与する

○目標（1）について

食と農の地域交流拠点「メサ・グランデ」は開設から丸6年、障がい者の日中の居場所「地域活動支援センター」として2年が経過しました。「めさみーる+」のような地域食堂としての取り組みも浸透し、地域の居場所として新城のまちに根づいてきました。地域活動支援センターの運営については、新スタッフを起用しながら既存のスタッフと協力しあって、食と農の交流拠点と起業支援という開設当初のミッションと、障がいのある人たちの居場所という新たなミッションを融合させる体制作りに苦労が続きました。施設長を中心にダイナミックな改善をすすめ、ある程度の落ち着きが出てきました。地域とのつながりの基盤である、地元農家から仕入れる野菜の販売とカフェの営業が、障がいのある人も共に輝く私たちの居場所、舞台です。次年度はより安定化に向け、注力していきます。

「遊友ひろば」は、登戸区画整理事業の進展を待ちながら、事業をスリム化しながらボランティアによる運営委員会体制で無事4年目を終えることができました。地域に愛される場として2018年度も運営を続けます。

○目標（2）について

川崎市ソーシャルビジネス振興事業のほか、かながわコミュニティカレッジでの連続講座も企画運営を行い、職員のスキルアップが図られ、関係各所との協力連携が強化されました。

○目標（3）について

地域子育て支援センター「おおと」では、地元のスタッフが主体的にかかわり、無事6年目の運営を行う事ができました。2017年度より新規で運営している「しんまるこ」についても、新しい環境の中、無事1年目を終了することができました。川崎市教育委員会から受託している「枳形中学校 地域の寺子屋」事業も無事2年目の運営を終え、スタッフ体制が充実してきました。

財政的には今年度も赤字運営となりましたが、今後の事業の継続のために、実施している事業での加算金や助成金のリサーチと獲得が必要です。また、事務局体制含め人材の強化が必要です。

2017年度の会員数

	正会員個人	正会員団体	賛助会員	合計
2016年度末	100名	8団体	18名	126名
2017年度末	96名	8団体	17名	121名

※個人会員の入会が3名、脱退が7名、団体会員の入会・脱退はなし、賛助会員の脱退が1名、合計で5名減となりました。

■2017年度事業内容

(1) 市民活動を支援するための事業の企画・実施（定款第5条(1)）

収入：645,408円(予算0円) 支出：556,000円(予算0円)

① 支援する活動の受託（担当理事：田代）

「たちばな農のあるまちづくり推進会議」から直売所マップ作りを受託しました。

② さまざまなグループへの参加と応援（担当理事：江田）

○市民活動グループとのネットワークを広げ、市民活動がより活発になるよう参加し応援しました。

- ・「多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）」会員として参加（江田）
- ・「教育に憲法を生かす川崎市民の会」会員として参加（江田）
- ・「地域通貨たま運営委員会」事務局として参加（江田）
- ・「たちばな農のあるまちづくり推進会議」委員として参加（田代）
- ・「一般財団かわさき市民しきん」代表理事・理事として参加（広岡・江田）
- ・「NPO法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加（田代）

○次の団体に団体会員として登録し、主に広報協力、情報交換などを行いました。

「川崎NPO法人連絡会」「NPO法人フリースペースたまりば」「NPO法人ワーカーズコレクティブ協会」「NPO法人アクションポート横浜」「NPO法人まちづくり情報センター神奈川(アリスセンター)」「NPO法人たすけあい多摩」「川崎商工会議所」「登戸東通商店会」「新城南口商店会」

○次の団体に賛助会員として登録し、協力しました。

「一般財団法人かわさき市民しきん」

○次の団体に協力団体として参加しました。

「福島の子どもたちとともに、川崎市民の会」

■成果/課題：ぐらす・かわさきの設立母体だった団体のつながりから続いている団体や、ぐらす・かわさきの活動から別組織化した団体、ぐらす・かわさきのミッションに合う活動グループへの参加（無償での参加）を通して、連携・ネットワークの強化を図りました。

(2) コミュニティビジネス（CB）を支援するための事業の企画・実施（定款第5条(2)）

収入：6,334,646円(予算6,804,536円)・支出：6,575,646円(予算6,804,536円)

① メサ・グランデCB事業（担当理事：竹林・田代、スタッフ：大澤）

メサ・グランデのスペースを土日祝を中心に有効活用し、開設時以来取り組んできたワンデイシェフ事業を通じて、コミュニティビジネスの創業や継続の支援を行いました。「川崎市認定創業支援事業」に位置付けられているので、他の中間支援組織らと連携し、起業講座・交流会の会場としての利用を促進しました。また、昨年度に引き続き、日本政策金融公庫との連携で、「caféの学校 in かわさき」等を開催しました。

○コミュニティビジネス支援を目的とした主な利用実績

- ・ボードゲームカフェ（わくらボ主催） 57回開催
- ・「まちづくりカフェ」（市民と行政の有志主催） 1回開催
- ・コミュニティビジネスに関する講座等への場の提供
 - 「カフェ体験ツアー」（日本政策金融公庫と共催）
6月8日・15日・22日の全3回 参加者 4名
 - 「caféの学校 in かわさき」（日本政策金融公庫と共催）

6月26日～8月1日の全6回（ワンデイシェフ実習2回含む） 参加者 6名
「コミュニティカフェ開設講座」全5回（長寿社会文化協会主催に協力）

第1回目に会場提供、および講師 参加者5名

・「大宴」（主催）5回開催 延べ91名参加（平均18名）※売上（167千円）はカフェ事業に

■**成果/課題**：ワンデイシェフでは、口コミやウェブ検索から申込みにつながるなど、講座受講者以外にも利用の幅が広がっています。ボードゲームカフェも土日祝に臨時開催することがあり、メサ・グランデが市民発のコミュニティビジネスの定着に一役買っていることを実感しています。しかし、立ち合い人員の不足により稼働日数が増やせないことから、人件費などの経費を抑えるためにも、会員による立ち合いの協力体制づくりが課題です。

②川崎市ソーシャルビジネス振興事業（担当理事：竹林・田代 スタッフ：田代・広岡・大澤）

川崎市からの委託事業です。市民のソーシャルビジネス（以下SB）に対する関心を高め、それらに就業・創業したい人や、すでにそれらの事業を行っている事業者への支援等を通して、市内でのSBの振興を図ることを目的としています。2017年度は、連続講座の開催とメサ・グランデに設けた起業相談窓口での相談対応の他に、2016年度に市の委託で行った「地域課題解決ビジネス（コミュニティビジネス・ソーシャルビジネス）実態調査」の結果に基づき、市内でSBを展開している事業者に向けたセミナーの開催、川崎市のSBポータルサイト「つなぐっどKAWASAKI」の記事作成、2017年11月16日に開催された「地域・社会貢献連携フォーラム カワサキコネクト」の運営補助を行いました。

○相談対応

- ・対応数：延べ50回（昨年は90回）
- ・相談内容：起業22件、情報収集10件、継続発展11件、連携7件、
- ・成果：就業1件、起業3件、法人化1件

○連続講座「地域や社会に貢献できるしごとのはじめ方セミナー」

- ・主講師：中小企業診断士 竹林晋氏 ・期間：9月2日～9月30日の全5回
- ・会場：川崎市産業振興会館12階会議室
- ・登録者：13名、参加者12名、特定創業支援事業対象1名

○SB事業者向けセミナー「経営課題解決ゼミナール」

◇テーマ1 人材確保・組織運営

- ・講師：(株) パーソナルビジョン研究所 田畑浩氏／非営利型株式会社ポラリス 市川望美氏
- ・期間：11月2日、11月30日（2回） ・登録者：9名、参加者8名

◇テーマ2 情報発信・PRとソーシャルグッド

- ・講師：ひとしづく株式会社 こくぼひろし氏／株式会社mugroom 村瀬成人氏
- ・期間：10月12日、10月26日（2回） ・登録者：6名、参加者6名

◇テーマ3 介護事業運営

- ・講師：中小企業診断士 為崎緑氏／公益財団法人長寿社会文化協会 浅川澄一氏
- ・期間：12月7日、12月14日（2回） ・登録者：22名、参加者13名

○地域・社会貢献フォーラム「カワサキコネクト」運営補助（受付業務及び懇親会運営）

- ・日時：11月16日 ・会場：川崎商工会議所KCCIホール
- ・懇親会：コネクトギャザリング（参加者24名）

○ポータルサイト「つなぐっどKAWASAKI」原稿作成

・事業者紹介 10件／イベントレポート 9件

■**成果/課題**：昨年行われたSB実態調査の結果を鑑み、新たに事業者向けのセミナーを開催しました。これからSB事業を立ち上げたいという層だけではなく、既にSB事業を担っている人への支援ニーズにも応える企画を実施できました。幅広い相談対応ができる人材育成が課題です。

(3) 子育てを支援する場所の運営及び関連事業の企画・実施（定款第5条(3)）

①川崎市地域子育て支援センター「おおと」「しんまるこ」（担当理事：池畠・広岡、スタッフ：本江・上村・堀・藤崎・久嶋・和田）

収入：3,886,076円（予算3,886,076円）・支出：3,886,076円（予算3,886,076円）

①川崎市地域子育て支援センター「おおと」「しんまるこ」

川崎市の委託を受け、大戸こども文化センター及び新丸子こども文化センター内で、それぞれ週3日午前中、未就学児とその保護者向けのサロン事業を実施しました。地域に根ざしたサロン、当事者のお母さんたちが主体的な関わり方ができるようなサロンの運営を行いました。地域住民であるスタッフによる体制であることを活かし、中原区子育て支援会議、中原区総合子どもネットワーク会議等へも参加し、地域の子育て支援情報の収集と発信、連携を行いました。2017年度はスタッフの研修を充実させ、スキルアップに努めました。

・おおと

実施日数：154日、利用人数：4,864人（大人2,292人、子ども2,572人） 1日平均31.5人

・しんまるこ

実施日数：154日 利用人数：6,523人（大人3,137人、子ども3,386人） 一日平均42.6人

■**成果/課題**：「おおと」は6年目、「しんまるこ」は1年目の実施となりました。それぞれの地域の特性に合わせて、利用者が安心して過ごせる環境づくりに努め、同じ悩みを持つ親子が交流し、地域での暮らしの情報を共有する場づくりを行うことができました。利用者も増加しています。地域との連携として、町内会・自治会や民生委員・児童委員など、地域の方々からの協力をいただけるようになりました。

課題としては、利用者のニーズに合わせて、こども文化センターの庭を使った遊びができるよう、今後も働きかけを行っていきます。

②川崎市教育委員会「地域の寺子屋事業」（柘形中学校）（担当理事：池上 スタッフ：池上・前川・池田・秋山・本所・山田・中村・吉田・谷口・池水・三浦・溝呂木・吉澤・田村・小沼・村田）

収入：1,004,995円（予算997,000円）・支出：1,034,508円（予算997,000円）

参加延べ人数：柘中生…1242名（1年生：802名 2年生：247名 3年生：193名）

5月下旬～6月上旬（前期中間テスト前）

7月下旬（夏休み）、8月下旬～9月上旬（前期期末テスト前）

10月下旬～12月上旬（川崎市診断テスト前～後期中間テスト後）

1月中旬～3月上旬（入試直前～後期期末テスト後）

○学び合い学習会（実技系教科も含め全教科対応。登録不要・参加費無料）：105回

・柘形中学校内（おもに3階多目的室。日によって理科室）21回

おもに部活動停止期間中（定期テスト3～5日前より）の放課後2～3時間程度

・児童館「すかいきっず」内（登戸 2249-1 KFJ 多摩 4階）84 回

おもに定期テスト前の 2 週間（おもに 月～金 18:30～20:30）

学校副教材や塾の宿題など各自が取り組みたい課題を持参し、おもに定期テストや夏休みの課題提出に向けて学びました。地域の大人や大学生のスタッフが、各自の目標設定や勉強方法などの相談に乗り、進捗状況の見守り、子どもたち同士の学び合い・助け合い促進、質問対応などで支援しました。ルールを改善するなどの工夫により、初年度に比べ学びの場としての質が高まり、参加者アンケートでも、「テストの成績が上がった」といった声が多数ありました。

○体験活動・世代間交流（お楽しみ会）：定期テスト後に年 4 回、すかいきっずにて開催。

子どもたちの要望を参考に様々な講師を招き、フリースタイルフットボール（ファンフリスト 6 月 13 日）、テーブルゲーム（川崎テーブルゲーム会シャッフル 9 月 8 日）、スポーツスタッキング（大学生スタッフ 12 月 1 日）、ダブルダッチ（日本大学ダブルダッチサークル D.S.P）の体験会を開催。新たな試みとして保護者懇談会も開催しました。

■**成果/課題**：スタッフの入れ替わりもありましたが、大学生・社会人とも新メンバーが加わり、子どもと向き合うスキルも上がってきています。大学生スタッフが全員 3 年生になるので、新しい大学生スタッフの獲得と育成が課題です。

（4）障がい者を支援する事業の企画・実施（定款第 5 条(4)）

地域活動支援センター メサ・グランデ事業

（担当理事：田代・小林、スタッフ：前田・富士井・和出・新堀・今田・岩渕・清水）

収入：20,099,196 円（うち補助金：11,631,348 円、売上 8,229,944 円、参加費 33,500 円、寄付 203000 円）支出：20,051,705 円（予算 21,200,000 円）

地域活動支援センターは、利用者にとっても、お客様にとっても、スタッフにとっても居心地の良いメサ・グランデというテーマをもち、地域活動支援センターとコミュニティカフェが融合した垣根のない場を目指して模索してきました。

昨年度は、利用者の活動がまかない作りに留まっていたましたが、本年度は徐々に個々の適性に合わせてカフェの仕事である弁当詰め、皿洗いや、清掃などの作業が浸透してきたことにより、スタッフと連携してカフェを盛り上げる方向に移行してきています。コミュニケーションの機会提供と社会性の醸成を得られる活動として、買い物に出向く、カフェ内で開催される講座の参加、縁農への参加、「めさみーる+」への参加などの機会提供をしました。これを機会に農家でアルバイトを始めたり、就労移行支援事業所に通所し始めたりとその方なりの前進をとげる足跡を残しています。同時に地域活動支援センターとして「居場所」の機能を果たすため、個々の体調や意向に合わせて趣味を楽しんだり、イベントを開催したり、話や相談の機会を作ってきました。同時に大学生や社会人インターン、ボランティアも幅広い受け入れを継続し、風通しの良い環境づくりに力を入れました。昨年度開始した社員用弁当の配達 は月 2 回から週 1 回に増やし、売り上げ増加に貢献しています。SNS や店内 POP の駆使、商店街主催のイベント参加によりメサ・グランデの広報活動に積極的に取り組みました。

・実施日数：241 日、利用者数：1,322 人（延べ）

また、「めさみーる+」と題し、地域食堂を毎月 1 回第 3 木曜日に開催し、ぐらす・かわさきの会員やコミュニティビジネス講座の修了生ら地域のボランティアさんの協力、寄付食材を得て、毎回 50～70 名ほどの参加者にカレーを提供する取り組みを継続して行いました。

・実施日数：12日、利用者数：716人（大人312人、子ども360人、シニア44人、平均60名）

■**成果/課題**メサ・グランデはD型の地域活動支援センターで、利用者定員5名を8名に変更し、利用人数は延べ平均5名となりました。利用者の人数過剰に対し、利用者の適性に応じてより適切な場所を紹介するなど調整を図り、定員人数内で推移していました。しかし就労支援センターへステップアップした利用者なども多くなり現在は減少傾向にあるため、今後は利用者の人数を適正に維持できるようにしていきます。

野菜の販売は、委託販売から買い取り販売に変更し、原価率を80%から70%に減らしましたが、売り上げ状況は昨年比62%に低下していることが大きな課題として残されます。飲食に関しては昨年比93%と低迷していることは認めざるを得ませんが、本年度終盤より売り上げが伸びてきていることは料理の向上や、広報活動の成果と考えられるため、絶えず新規顧客開拓とリピーターの維持に努めていきます。

メサ・グランデらしい地域活動支援センターのあり方に到達するよう地固めと更なる発展を目指します。

(5) 市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施（定款第5条(5)）

①地域活動支援センター メサ・グランデ事業/上記(4)の通り

②遊友ひろば事業（担当理事：池上・町田）

収入：3,559,906円（予算3,370,000円）・支出：3,285,811円（予算3,310,000円）

幅広い世代の住民の交流を促進し、周辺地域のコミュニティを活性化するため、ひろば運営に関心のある有志で運営委員会を設け、以下のような事業を行いました。

○地域住民等への活動場所の提供 担当ボランティア：池上・茂呂・秋山

- ・キッチン付き貸スペース…1時間1,200円（うち200円たまで使用可）。新規利用者が2時間以上利用する場合は初回1時間無料特典を実施。
- ・荷物保管用引出し等（1カ月500円）
- ・手紙の受け取り場所としてのレターボックス（1カ月300円）
- ・壁面掲示・チラシラック等を活用した情報提供（地域の市民活動・行政等の情報）
- ・定期利用はやや減少傾向ですが、近隣マンション管理組合の会議やパーティ利用などで裾野は少しずつ広がっています。

○健康麻雀 担当ボランティア：瀬川・町田ほか

主に年配者が麻雀を通して地域の人と交流をし、自然に頭や指先を使うことで、心身の健康の促進を図るためのプログラムです。

- ・初級者サロン…火曜13時～17時。1回1200円（500円たまで使用可）。和気あいあいと楽しく、「生きがい」と感じている方もおり、休みにすると寂しいと参加者が自主開催することもあります。ただ、参加者数は減少傾向にあり、5卓になることは珍しくなりました。

実施回数：47回、参加者延べ：671人（1回平均14人）

- ・健康麻雀サロン…金曜10時～15時。1回1500円（500円たまで使用可）。残念ながら、3卓が定着し、4卓成立は2割を切りました。健康麻雀を短時間でも安くやっているところが増えたこと、体調を崩された方が数名いらしたことなどが原因です。ただ、参加者も知り合いを連れてきてくださって協力してくれ、毎回ではないにしても参加してくれそうな人が増えています。ひろば更

新料のための寄付にも多くの方が積極的に協力してくださいました。あまりの殺伐とした雰囲気は解消方向にありますが、ご家族やご本人が体調を崩されて休まれる方が増えました。ただ、新しい参加者が加わったことや、自主開催・交流会が開催されたのは良かったです。

実施回数：47回、参加人数延べ：600人（平均13人）

○乳幼児親子向けサロン「親子ひろば」 担当ボランティア：粕谷・池上・山崎・根本・松尾

- ・水曜10時半～14時。参加費300円。100たまで使用可
- ・おもに0～3歳の子どもと育休中などの母親が利用し、知り合うきっかけの場になりました。
- ・利用者の希望に基づく多彩な講座等イベントを実施（別途イベント参加費が必要）し、地域の人材をその講師として起用し、講師デビューの場にもなりました。
- ・遊友ひろばの開設以来13年以上ほぼ毎週続けてきましたが、共働き世帯の急増や専業主婦世帯の急減などの状況を鑑み、2017年度末で定期開催を終了しました。今まで支えてくださった皆さまに心から感謝を申し上げます。始めた頃は乳幼児の親子が家から出てくつろげる交流の場が非常に限られていましたが、最近は様々なサロンやイベントが充実し、親子ひろばの当初の役割は無事果たせたのではないかと考えます。

実施回数：32回 参加人数：105組（平均3組）

- ・第15回 たまたま子育てまつり 企画イベント「ベビ★ママストレッチ&ステップ」
日時：9月17日 講師：RIKA 参加人数：親子43組
- ・川崎市子ども未来局青少年支援室 子どもの権利の日事業
「～子どもの権利に思いをはせて～クリスマスコンサート」（KFJ多摩 すかいきっず と共催）
日時：12月14日 出演：ラメール（歌）、フェリーチェ（フルート）
参加人数：親子45組、大人13名

○土井さんのオーガニック料理教室

講師：土井由美子さん（ぐらす・かわさき会員）

担当ボランティア：町田・宮下

季節料理、行事をとりいれつつ「自然の恵を残さず丸ごといただくこと（一物全体）、暮らす土地の旬のものを食べる（身土不二）」を基本とし、体調に合わせた料理をつくるコツを学ぶプログラムです。20～60代と幅広い世代が参加しています。先生のご都合で教室という形での開催を見合わせ今年度は自然食レストランを数回めぐり楽しみましたが、2月より、本格的に再開し20代の若いメンバーも増えました。・利用料1回2,500円（100たまで使用可）。

実施回数：2回 参加人数延べ：14人（平均7名）

○食事付き寺子屋 担当ボランティア：小野・川口・佐藤・高崎・徳田・町田

講師…地域のボランティア

小学4年生から中学生に学びの楽しさを伝え、学習できる居場所を提供するプログラムです。小学生は、低学年からの要望があり受け入れました。昨年に引き続き4月から助成金を受けての軽食サービスは、学校から帰っても親が不在などの理由で子どもたち・保護者に好評でした。食事を作ってくださるヘルスマイトさんからの塩分や野菜についての話も勉強になりました。ただ、「食事が出るのはありがたいが、家で家族でも食べたいので食事の時間を早めてほしい」との希望も出ました。寺子屋の情報を経済事情が厳しい家庭、共働き家庭にいかにつけるかが課題です。

- ・教科…算数・数学・英語。月曜日開催。1時間500円。

実施回数：40日 参加者延べ：307人(平均8名)

■**成果/課題**：利用者の高齢化、共働き家庭の増加、区画整理事業などで、健康麻雀や貸しスペースの利用が減少し、月平均で約3万円の赤字が続きましたが、遊友ひろばへの寄付をいただいたことで大変助けられました。また、2018年5月末の賃貸契約更新を見据えて、一時は閉鎖も検討しましたが、「続けてほしい」という多くの声を受け、継続をめざして寄付を募ったところ、さらに、多くの方から賛同の寄付をいただきました。赤字傾向はなかなか解消されていませんが、2020年頃の区画整理終了まで続けられるように、ボランティアスタッフ一同がんばりたいと思います。

(5) 以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供（定款第5条(6)）

（担当理事：江田・広岡 担当スタッフ：田代・広岡・大澤）

収入：941,098円（予算1,300,000円）・支出：1,078,625円（予算1,300,000円）

① 広報

人員体制が厳しい中、ぐらすレターの発行を年3回とし、ホームページやフェイスブックページの活用を進めました。ぐらすレターの郵送分も、メーリングリストでの配信に少しずつ切り替えており、郵送費用の縮小を進めました。

② 講座開催・講師派遣

かながわコミュニティカレッジで「空き家を活かそう！まちの交流拠点をデザインする」を昨年度に引き続き企画運営しました。また、NPO法人ソーシャルコーディネーターかながわと協力して「フードロス、活かす取り組み、減らす取り組み」と題した連続講座にも取り組みました。

また、ぐらす・かわさき設立以来毎年開催してきた「川崎市予算学習会」も開催しました。

【講座開催】

- ・「空き家を活かそう！まちの交流拠点をデザインする」（かながわコミュニティカレッジ）
（10月5日～11月30日）全8回 参加者30名
- ・「フードロス、減らす取り組み、活かす取り組み」（かながわコミュニティカレッジ）
（1月10日～2月21日）全8回 参加者30名
- ・「川崎市予算学習会」（3月3日）講師：三浦淳さん 参加者：16名

【講師派遣】

- ・日本女子大学（9月22日）
- ・「コミュニティカフェ開設講座」（長寿社会文化協会）（田代）

③ 行政などに関わる委員会への参加

国分寺市協働事業審査会（田代）

川崎市住宅政策審議会（田代）

かわさき市民公益活動助成金審査委員会（池上）

④ コミュニティカフェガイドブックの製作

制作1,000部 2017年10月完成～2018年3月までの販売数187部 販売金額104,650円

■**成果/課題**：会員向けのぐらすレターの郵送数はさらに縮小できると思われるので、会員に再度、メーリングリストでの配信への移行を進めていきます。行政などに関わる委員会への参加は、政策提言への直接的な場でもあるので、今後も積極的に参加していく必要があります。